

県内経済は、生産活動で回復に向けた動きが続いているが、雇用情勢は引き続き厳しい状況にあり、個人消費も一部に明るい動きはみられるものの総じて低調に推移するなど、厳しい状況が続いている。

## 1. 平成22年4月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額（全店舗ベース）は、衣料品、飲食料品、身の回り品などが低調に推移し、11ヵ月連続で前年を下回った。乗用車新車販売は、補助金や減税の効果から普通車、小型車、軽乗用車とも前年を上回り、合計では9ヵ月連続で前年を上回った。生産活動は、鉱工業生産指数（季節調整済指数）が2ヵ月ぶりに前月を上回るなど、回復に向けた動きが続いている。投資動向をみると、公共工事前払保証取扱は、請負金額が4ヵ月連続で前年を上回った。建築着工（民間・非居住用）は、棟数が9ヵ月連続で前年を下回った。新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲とも前年を下回り、合計では8ヵ月連続で前年を下回った。倒産状況は、負債金額10百万円以上の倒産件数、負債総額とも前年を下回った。雇用情勢は、有効求人倍率（季節調整値）が、前月と同水準であり、依然として厳しい状況が続いている。

### 〔消費動向・一部に明るい動き〕

大型小売店販売額（全店舗ベース）は、厳しい雇用・所得環境が続く中、衣料品を始め飲食料品や身の回り品などが低調に推移し、全店舗ベースで180億58百万円（前年同月比△2.4%）と11ヵ月連続で前年を下回った。乗用車新車販売は、普通車や小型車が補助金や減税の効果から前年を上回る動きが続いており、また軽乗用車も足元2ヵ月連続で前年を上回るなど、合計では9ヵ月連続で前年を上回った。消費者物価指数は、前月比0.1%下降し、2ヵ月ぶりに前月を下回った。また前年同月比では1.4%下降し、15ヵ月連続で前年を下回った。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、エコポイント効果から薄型テレビが前年を大幅に上回ったほかDVDレコーダー、パソコン、携帯電話等も堅調に推移し、デジカメ、携帯電話、冷蔵庫などが振るわなかったものの、合計では前年を上回った。ホームセンターは、節約志向の高まりに加え天候不順も重なり、日用品、家庭用品を始めインテリア、園芸植物、木材塗料、ペット関連商品など総じて伸びず、全体では前年を下回り推移した。旅行取扱額は、国内・海外の個人ならびに団体とも、景気低迷や所得環境の悪化などから低水準で推移した。

### 〔投資動向・減少基調〕

4月の公共工事前払保証取扱は、件数は14ヵ月連続で、請負金額は4ヵ月連続で前年を上回った。3月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数は9ヵ月連続で前年を下回ったが、床面積、工事費予定額は、それぞれ11ヵ月ぶりに前年を上回った。4月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲とも前年を下回り、合計では8ヵ月連続で前年を下回った。

### 〔生産活動・回復に向けた動き〕

3月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、95.0（前月比+5.0%）となり、2ヵ月ぶりに前月を上回った。また原指数では103.2（前年同月比+33.2%）となり、4ヵ月連続で前年を上回るなど回復に向けた動きを続けている。4月の大口電力販売量は、4ヵ月連続で前年同月比二桁増となるなど、5ヵ月連続で前年を上回った。特に、非鉄金属や輸送機械、化学で、前年同月を大幅に上回り復調振りが窺える。

### 〔企業倒産・横ばい〕

負債金額10百万円以上の企業倒産状況は、倒産件数が3ヵ月連続で前年を下回り、負債総額は2ヵ月連続で前年を下回った。

### 〔金融動向・貸出金鈍化〕

4月末の預金残高は前年同月比+1.9%と38ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は同△1.3%と6ヵ月連続で前年を下回った。

### 〔雇用動向・下げ止まりの動き〕

有効求人倍率（季節調整値）は、0.38倍となり前月と同じであった。原数値では30ヵ月ぶりに前年を上回った。新規求人倍率（季節調整値）は、0.69倍となり、2ヵ月ぶりに前月を下回ったが、原数値は0.52倍となり3ヵ月連続で前年を上回った。

県内経済動向の概要

	項目	前年同月比			前月比		
		22年2月	3月	4月	22年2月	3月	4月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	↘	↘	↘	↘	↗	↘
	乗用車新車登録台数	↗	↗	↗	↗	↗	↘
	消費者物価指数（総合）	↗	↗	↗	↗	↗	↗
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	建設着工棟数（民間・非居住用）	↗	↗	-	↗	↗	-
	新設住宅着工戸数	↗	↗	↘	↗	↗	↘
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	↗	↗	-	↗	↗	-
	大口電力販売量	↗	↗	↗	↗	↗	↗
企業倒産	企業倒産件数注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	企業倒産金額注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
金融動向	預金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	貸出金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	新規求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗

良化 ↗      良化傾向にあるがほぼ横這い ⇔      悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇔      悪化 ↘  
 注1：前月比は季節調整値、前年同月比は原指数。注2：負債総額10百万円以上。注3：前月比は季節調整値。前年同月比は原指数。

2. 県内経済動向

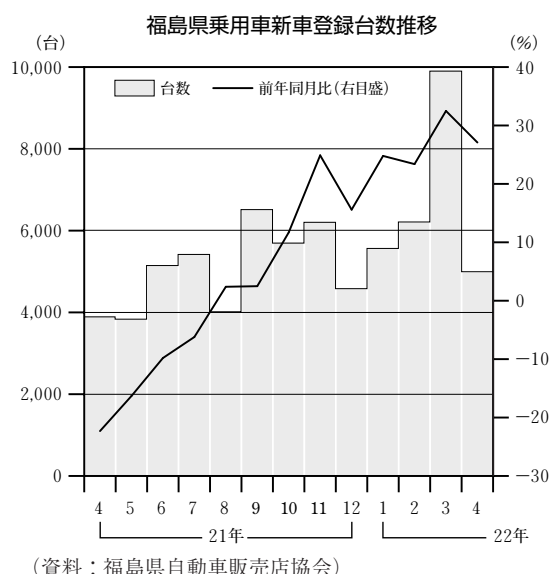
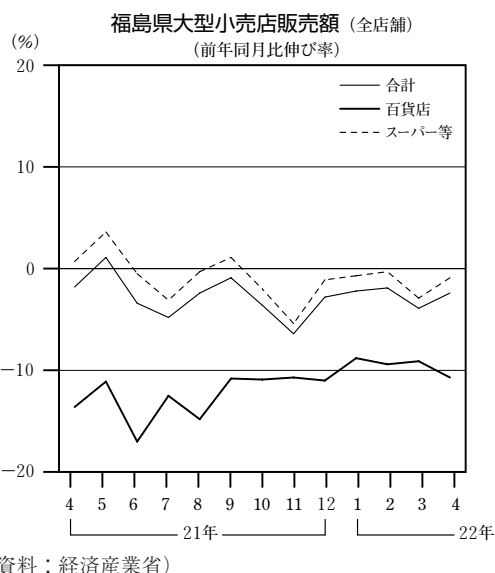
— 消費動向 —

**大型小売店** 4月の県内大型小売店の販売額は、雇用・所得環境が厳しい状況が続く中、春・初夏物衣料全般が振るわなかったことに加え、節約志向から飲食料品や身の回り品も低調に推移し、全店舗ベースで180億58百万円（前年同月比△2.4%）と11ヵ月連続で前年を下回った。一方、既存店ベースでも同4.9%減と17ヵ月連続で前年を下回った。（注：既存店とは調査月において当月と前年同月とともに存在した事業所の数値。）

業態別に内訳をみると百貨店は、衣料品が主力の婦人服をはじめ全般的に振るわなかったほか、飲食料品、身の回り品も前年を大きく割り込み、全店舗ベースで25億68百万円（同△10.7%）と、既存店ベース（同△3.9%）とともに32ヵ月連続で前年を下回った。

スーパーは、節約志向が強まる中、主力の飲食料品の売上は前年を上回ったが、衣料品や身の回り品が前年を大きく下回り、全店舗ベースで154億90百万円（同△0.9%）と7ヵ月連続で前年を下回った。一方、既存店ベースでも同5.1%減と、11ヵ月連続で前年を下回った。

**乗用車販売** 4月の乗用車新車登録台数（軽乗用車含）は、合計で5,022台（前年同月比+27.1%）



となり、減税や補助金効果により9ヵ月連続で前年を上回った。車種別でみると、普通車は523台（同+28.8%）と6ヵ月連続で前年を上回った。小型車は2,738台（同+43.1%）と9ヵ月連続で前年を上回った。軽乗用車は1,761台（同+7.9%）と2ヵ月連続で前年を上回った。

4月の乗用車中古車販売台数（軽自動車は名義変更を含む）は、合計で9,692台（前年同月比+0.4%）と5ヵ月ぶりに前年を上回った。車種別にみると普通車は2,775台（同+1.5%）と15ヵ月ぶりに前年を上回った。小型車は3,598台（同△3.7%）と5ヵ月連続で前年を下回った。軽乗用車は3,319台（同+4.0%）と2ヵ月連続で前年を上回った。

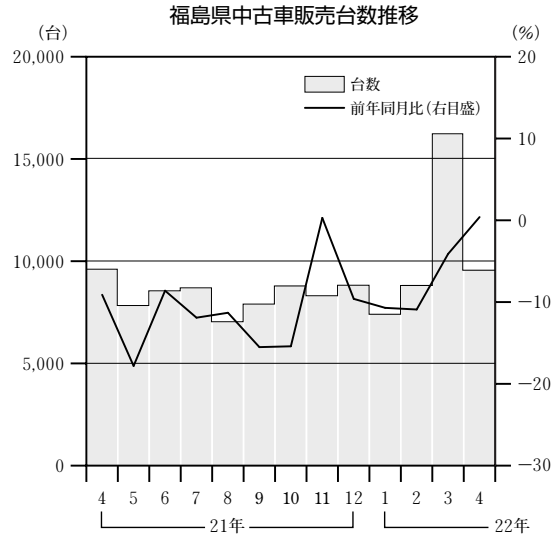
**消費者物価指数** 4月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成17年=100）でみると、99.8（前月比△0.1%）となり、2ヵ月ぶりに前月を下回った。前年同月比では1.4%下がり、15ヵ月連続で下降した。

費目別の指数動向をみると、「被服および履物」が104.8（前月比+7.7%）、「教養娯楽」が95.0（同+1.1%）、「交通・通信」が98.7（同+0.9%）、「食料」が104.7（同+0.8%）、「保健医療」が96.2（同+0.7%）、「諸雑費」が101.1（同+0.6%）、「住居」が98.9（同+0.1%）と7費目で前月比上昇した。一方、「教育」が82.9（同△20.1%）、「家具・家事用品」が89.6（同△2.1%）、「光熱・水道」が105.0（同△1.7%）と3費目で前月比下降した。特に、「教育」は高校授業料の無償化の影響から前月より大幅に下降した。

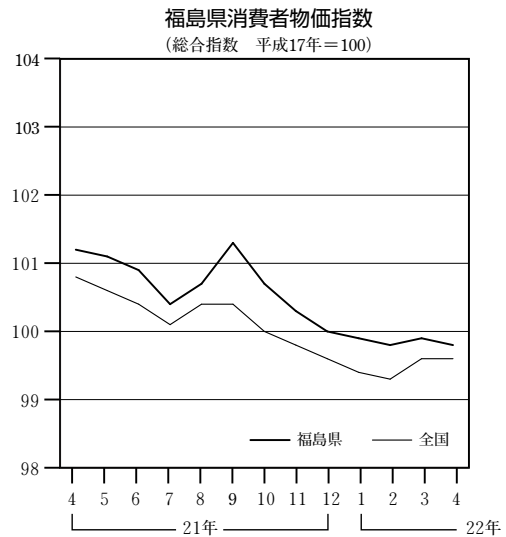
**家電量販店** 4月の売上状況は、エコポイント効果から薄型テレビが前年を大幅に上回るなど好調が続いているほか、DVDレコーダー、携帯電話、パソコンなども堅調、デジカメや冷蔵庫、洗濯機など白物家電が振るわなかったものの、合計では前年を上回り推移した。

**ホームセンター** 4月の売上は、節約志向の高まりに加え、天候不順も重なったことから、日用品、家庭用品を始めインテリア、園芸植物、木材塗料、ペット関連商品など総じて伸びず、全体では前年を下回り推移した。

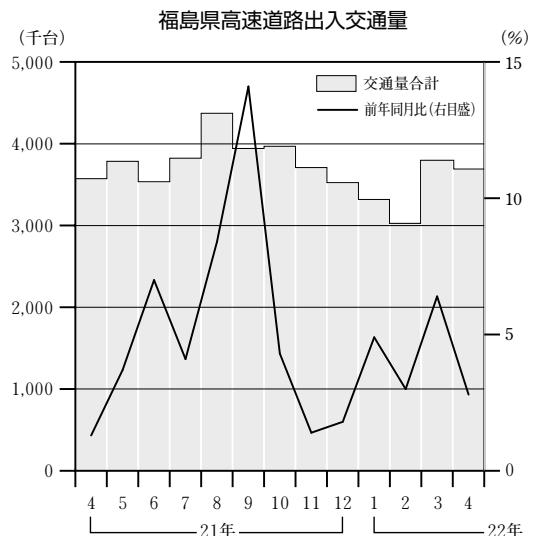
**旅行** 4月の旅行取扱額実績は、景気低迷や所得



(注) 軽自動車は名義変更台数含む  
資料：(社)日本自動車販売協会連合会 福島支部  
(社)全国軽自動車販売協会連合会



(資料：総務省統計局)



(資料：東日本高速道路(株)東北支社)

環境の悪化などから盛り上がりには欠け、国内・海外の個人並びに団体とも、低水準で推移した。

**高速道路** 4月の県内自動車道出入口台数は、「ETC割引制度」の効果などから、3,703,399台（前年同月比+2.8%）と13ヵ月連続で前年を上回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,163,899台（同+2.5%）と5ヵ月連続で前年を上回った。磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は324,712台（同+4.7%）と2ヵ月連続で前年を上回った。磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は498,207台（同△1.3%）と4ヵ月ぶりに前年を下回った。常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は716,581台（同+6.0%）と13ヵ月連続で前年を上回った。

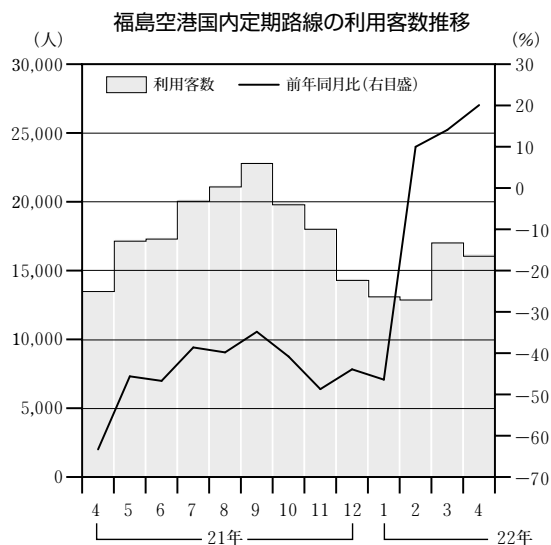
**福島空港** 4月の福島空港国内定期路線の利用状況は、16,340人（前年同月比+20.1%）と前年を上回った。路線別にみると、札幌便は6,589人（同+16.1%）、大阪便は9,751人（同+22.9%）となり、それぞれ前年を上回った。一方、国際定期路線の利用状況は、4,713人（同+27.9%）と前年を上回った。路線別にみるとソウル便は3,512人（同+17.0%）、上海便は1,201人（同+75.6%）となっている。

## —— 投資動向 ——

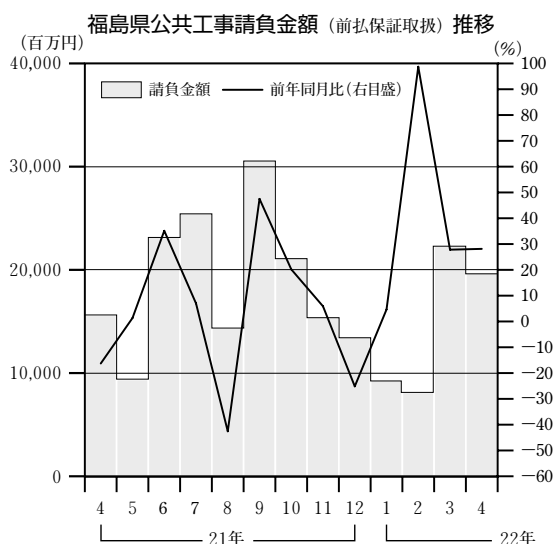
**公共工事** 4月の公共工事前払保証取扱は、件数が364件（前年同月比+14.1%）と14ヵ月連続で前年を上回った。請負金額は197億48百万円（同+26.6%）、保証金額は76億6百万円（同+33.1%）となり、それぞれ4ヵ月連続で前年を上回った。

4月の主な発注者別の請負金額は、国が前年比8億15百万円増加し、36億3百万円（同+29.2%）となった。独立行政法人等（東日本高速道路㈱など）は同16億70百万円減少し、26億53百万円（同△38.5%）となった。県は同8億93百万円増加し、65億19百万円（同+15.9%）となった。市町村は同40億2百万円増加し、67億23百万円（同+147.2%）となった。

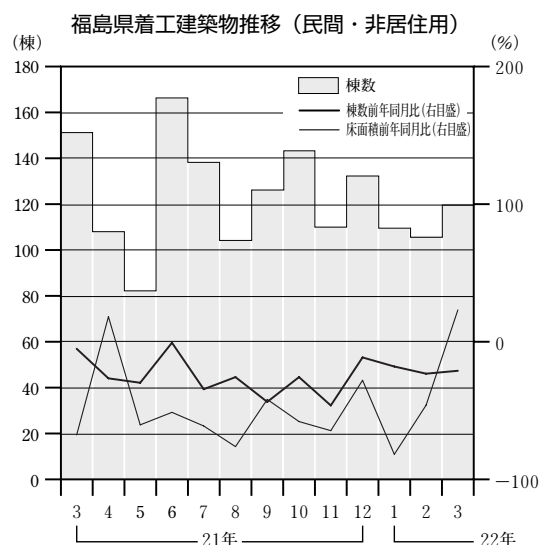
**設備投資** 3月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が121棟（前年同月比△20.4%）と9ヵ月連続で前年を下回った。床面積は73,272㎡（同



（資料：福島県商工労働部空港交流課）



（資料：東日本建設業保証㈱）



（資料：国土交通省）

+23.8%)、工事費予定額は158億14百万円(同+75.3%)となり、それぞれ11ヵ月ぶりに前年を上回った。

4月の建築物確認件数(計画変更を除く)は、729件(前年同月比+0.4%)と2ヵ月連続で前年を上回った。建築物別にみると、1~3号建物(一定規模以上の建築物が対象)は151件(同+17.1%)と2ヵ月連続で前年を上回った。4号建物(小規模な木造・非木造住宅などが対象)は578件(同△3.2%)と2ヵ月ぶりに前年を下回った。「構造計算適合性判定合格件数」は7件と前月比32件減少し、2ヵ月ぶりに前月を下回った。

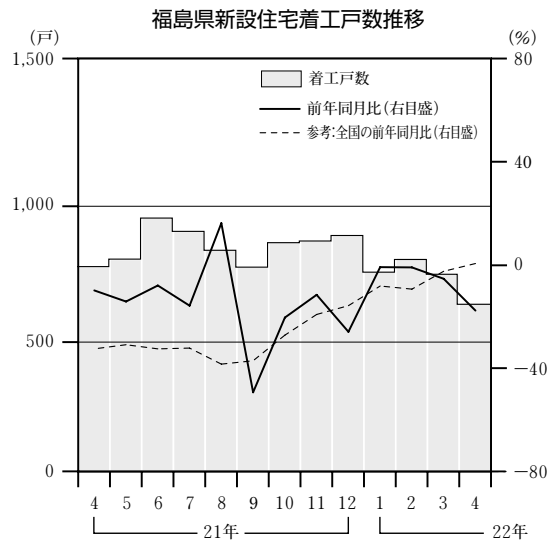
建築物着工の先行指標である4月の建築物申請件数は、761件(同+3.4%)と3ヵ月連続で前年を上回った。建築物別にみると、1~3号建物は157件(同+8.3%)と4ヵ月連続で前年を上回った。4号建物は604件(同+2.2%)と2ヵ月連続で前年を上回った。「構造計算適合性判定申請件数」は20件と、前月比4件増加し、2ヵ月ぶりに前月を上回った。

**住宅建設** 4月の県内新設住宅着工戸数は、613戸(前年同月比△17.6%)と8ヵ月連続で前年を下回った。主な利用関係別にみると、「持家」は408戸(同△4.4%)と2ヵ月ぶりに前年を下回った。「貸家」は180戸(同△32.6%)と3ヵ月ぶりに前年を下回った。「分譲」は25戸(同△49.0%)と5ヵ月連続で前年を下回った。分譲のうちマンションの着工戸数は、13ヵ月連続でゼロとなっている。

## 生産活動

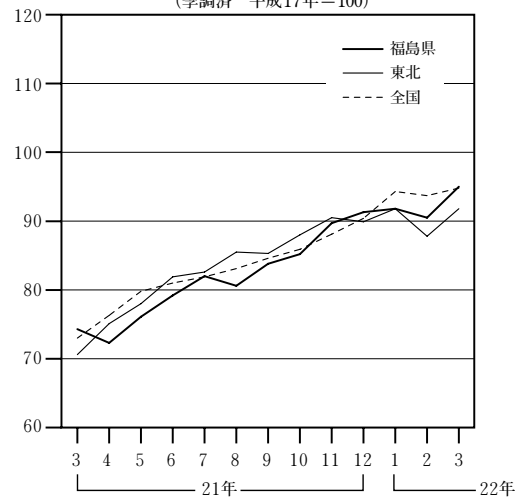
**鉱工業生産指数** 3月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると95.0(前月比+5.0%)となり、2ヵ月ぶりに前月を上回った。原指数は103.2(前年同月比+29.8%)となり、4ヵ月連続で前年を上回った。

上昇および低下した主な業種別(季節調整済指数)では、精密機械工業で134.2(前月比+21.8%)、印刷業で80.4(同+20.7%)、電気機械工業で104.4(同+14.3%)など15業種で上昇した。一方、化学工業で85.2(同△17.4%)、金属製品工業で67.3(同△3.9%)、食料品・たばこ工業で



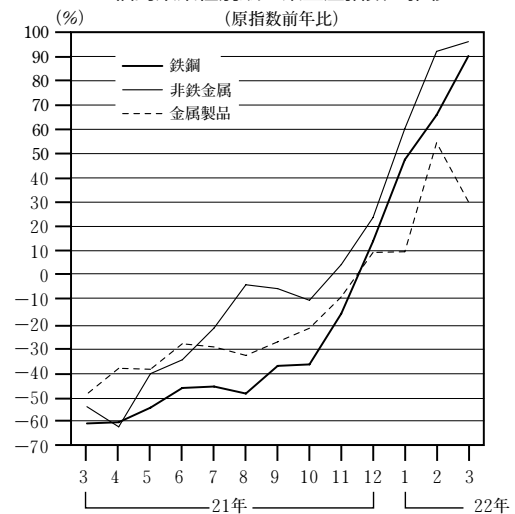
(資料: 国土交通省)

福島県鉱工業生産指数(全国、東北との比較)  
(季調整 平成17年=100)



(資料: 福島県企画調整部統計調査課)

福島県業種別鉱工業生産指数の推移



(資料: 福島県企画調整部統計調査課)

84.5（同△2.4%）など5業種で下降した。

**化学** 4月の食品包装フィルム用合成樹脂やフッ素樹脂、金属代替プラスチック、医薬品の生産は、好調が続いており、炭素繊維、工業製品（化成ソーダ等）なども持ち直しの動きがみられた。酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）の生産やバリウム化合物（電子部品原料）の生産は堅調に推移した。

**鉄鋼・金属** 4月の伸銅品の生産は、半導体向け電子材および自動車向け端子材とも、前年を大幅に上回り推移した。建機用鋳造品の生産は、新興国向けが回復、国内向けが低調だったものの、合計では前年を上回り推移した。車両用鋳造品は、新幹線、JR 在来線の更新需要および海外需要に支えられ、堅調に推移した。船舶用バルブ部品および陸上プラント用バルブ部品は、前年を上回り推移した。

**輸送用機械** 4月の自動車用鋳造品の生産は、海外向けが復調し、前年を上回り推移した。自動車用オイルシールの生産は、国内販売の復調を受け、持ち直しの動きが続いている。カーナビ・カーオーディオの生産も、前年を上回る水準で推移するなど、持ち直しの動きが続いている。

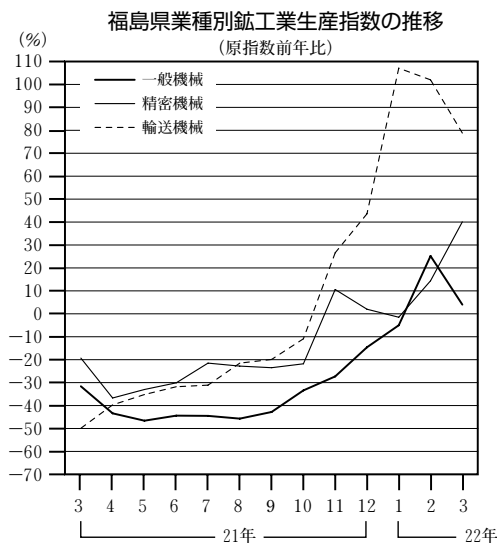
**電気機械** 4月の変圧器、自動車モーターの生産は堅調に推移し、配電盤、電熱炉の生産が振るわなかったものの、全体では前年をやや上回った。

**情報通信機械** 4月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、主力のインド向けが依然低調、前年を下回る水準で推移した。衛星通信機器関連、FA 関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

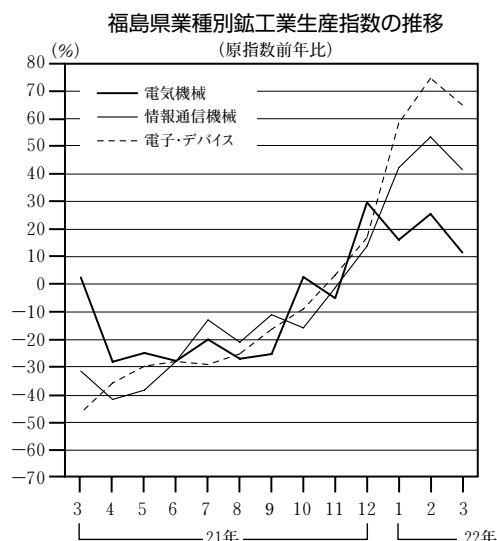
**電子部品・デバイス** 4月のLSI（大規模集積回路）の生産は、車載品、産業機器、パソコン・OA 向け等が好調、AV・ゲーム機・家電向けなども前年並みに推移するなど、持ち直しの動きが続いている。

**精密機械** 4月の医療用内視鏡の生産は、前年を上回る水準で推移した。デジタル一眼レフカメラ用レンズは、持ち直しの動きが続いており、前年を上回る水準で推移した。

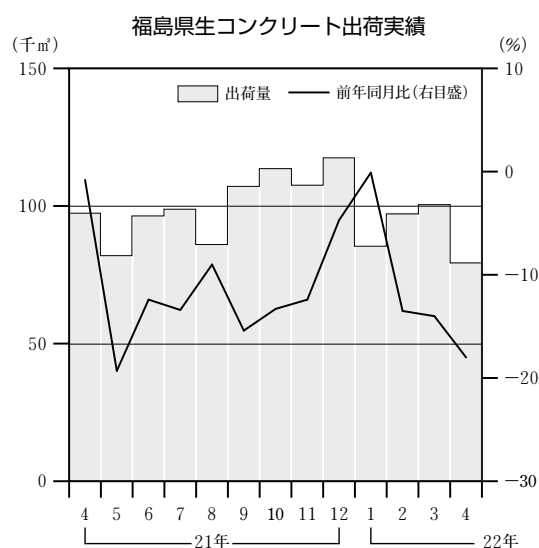
**紙・紙加工品** 4月の段ボールの生産は、IT 製品向けが低調、前年を下回る水準で推移した。



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

また、ノーカーボン紙および感熱紙の生産は、前年をやや下回る水準で推移した。

**窯業・土石** 4月の生コンクリート出荷量は、全体で80,456<sup>m</sup>3（前年同月比△18.0%）と13ヵ月連続で前年を下回った。増加地区についてみると、官公需では、会津地区でダム取水トンネル建設工事等により、民需ではいわき地区で火発増設工事等、会津地区で化学系の工場増設工事等により増加した。

**清酒** 4月の清酒移出数量は、1,456kl（前年同月比△3.8%）と19ヵ月連続で前年を下回った。タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が503kl（同+2.8%）と3ヵ月ぶりに前年を上回った。一般酒（特定名称酒以外の酒）は、953kl（同△6.9%）と19ヵ月連続で前年を下回った。

**化合繊維物** 4月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心に、前年並みの水準で推移した。ポリエステルは、紳士服、婦人服の裏地向けなど前年並みの水準で推移した。

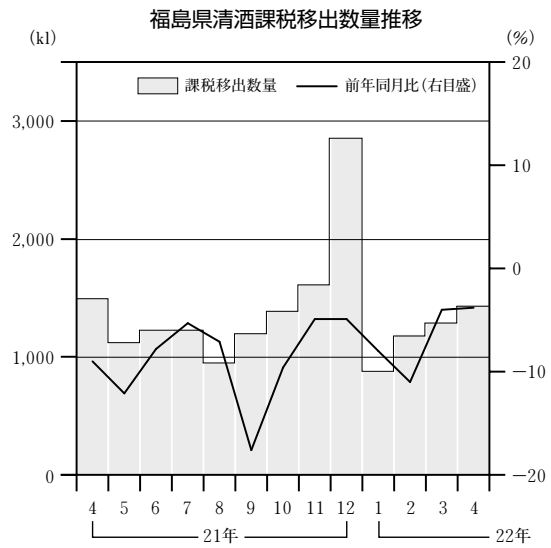
**ニット** 4月のニットの生産は、夏物生産が中心であるが、国内需要の低迷から、受注・生産は低調に推移した。

**大口電力** 4月の大口電力販売量は、532百万kw/h（前年同月比+16.3%）と5ヵ月連続で前年を上回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で123百万kw/h（同+27.8%）、「電気機械」で95百万kw/h（前年同月比△9.5%）、「化学」で63百万kw/h（同+45.2%）、「輸送用機械」で55百万kw/h（同+55.2%）、「一般機械」で25百万kw/h（同+16.6%）、「紙・パルプ」で19百万kw/h（同△11.4%）となっており、特に、非鉄金属や輸送用機械、化学で前年を大きく上回った。

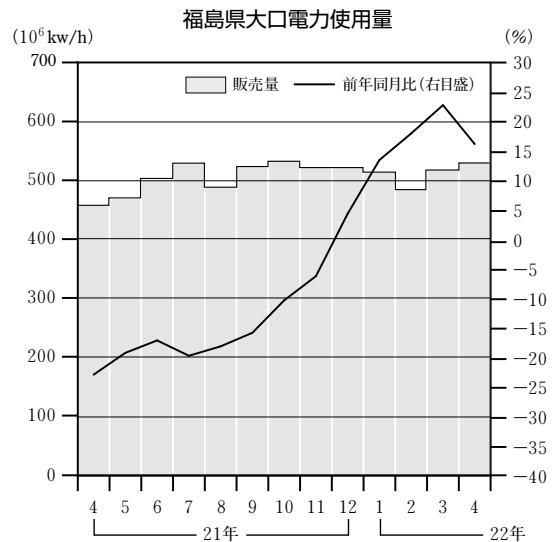
## —— 企業倒産 ——

**企業倒産** 4月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が10件（前年同月比△16.7%）となり、3ヵ月連続で前年を下回った。負債総額は、17億55百万円（同△29.5%）となり、2ヵ月連続で前年を下回った。

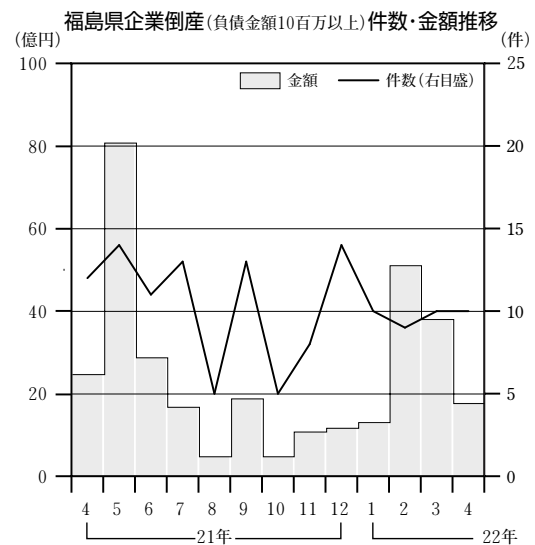
年間累計（2009年1月～4月）では、倒産件数



（資料：福島県酒造組合）



（資料：東北電力福島支店）



（資料：帝国データバンク福島支店）

が前年同期比5件減少し、39件（前年同期比△11.4%）、負債金額が同18億94百万円増加し、119億77百万円（同+18.8%）となっている。

倒産主因別内訳は、10件全てが受注・販売不振、業界不振など不況型倒産であった。業種別内訳は、建設業、小売業が各3件、製造業、卸売業が各2件となった。また、地区別内訳は、県北（本宮市以北）が5件、県南（郡山市以南）が3件、会津が2件となった。

## 金融動向

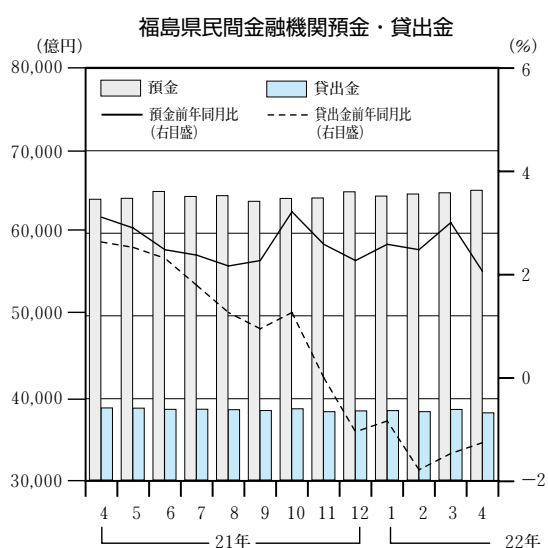
**資金需要** 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の4月末の預金残高は、6兆5,274億円（前年同月比+1.9%）と38ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆8,261億円（同△1.3%）と6ヵ月連続で前年を下回った。

**保証協会** 4月の保証承諾は、件数が950件（前年同月比△16.2%）、保証金額が101億1百万円（同△22.3%）となった。4月末日現在の保証債務残高は、件数が43,575件（同+0.8%）、金額が3,547億88百万円（同+3.0%）となった。また、4月中の代位弁済は、件数が93件（同+52.5%）、金額が8億5百万円（同+42.5%）となり、それぞれ2ヵ月連続で前年を上回った。

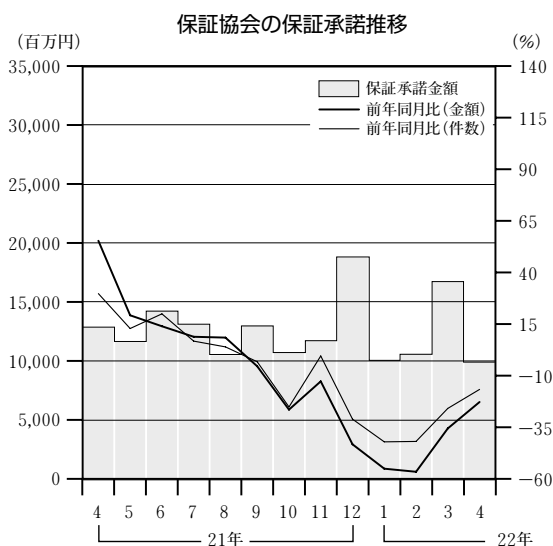
## 雇用動向

**雇用動向** 4月の新規求人数（原数値）は、8,001人（前年同月比+4.5%）と2ヵ月連続で前年を上回った。新規求職申込件数（原数値）は、15,323件（同△0.4%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。

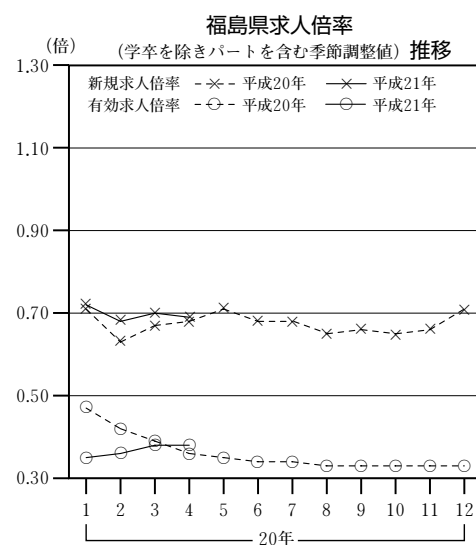
新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.69倍（前月比△0.01<sub>㊦</sub>）と2ヵ月ぶりに前月を下回った。原数値は0.52倍（前年同月比+0.02<sub>㊦</sub>）と3ヵ月連続で前年を上回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.38倍（前月比±0<sub>㊦</sub>）となり、前月と同じであった。原数値は0.34倍（前年同月比+0.01<sub>㊦</sub>）と30ヵ月ぶりに前年を上回った。



（資料：日本銀行福島支店）



（資料：福島県信用保証協会）



（資料：福島労働局職業安定部）